

面白い研究のために

文学部3回生 佐藤 慧

私は今回のワークショップにおいて二つの目標を設定した。以下ではその到達度を自己評価する。

1. 研究関心の深化

私は今年度の4月に社会学専修に進学した。私にとって今回のワークショップは自分の研究成果を報告する初めての機会であった。したがって、高度な発表を目指すというよりは、準備段階から発表後の意見交換に至る一連の活動を、今後も取り組むであろう自分の研究課題（住宅政策、住宅制度）の意義や面白さを多面的に把握する機会として利用することを目標にした。

この目標は達成された。それは以下の三つの方法によってである。第一に、発表準備段階において、初めて系統的な文献探索をしたことによって。第二に、フィールドトリップで台北の有名な公営住宅である南機場アパートメントを訪れたことによって。第三に、日本の住宅制度についての発表後に、様々なコメントやアドバイスをもたらしたことによってである。

2. 英語を使う

このワークショップでは準備段階から英語のみを使用する。そのため一定の英語運用能力が必要である。その獲得が私の二つ目の目標であった。

この目標はある程度達成された。まず、英語文献を読むことと英文を書くことに関しては大幅に抵抗感が減った。さらに、口頭でのコミュニケーションも、聞き取りには問題はなかった。問題は話す能力にあった。具体的には、自分の研究の内容は伝えられたが、ほかの話題になるとほとんど聞き手に回るようになった。そのため他者の研究についてコメントをすることができなかった。これは今後の大きな課題である。

次に今後の目標について述べたい。

私は今回、研究を続けるにあたって二つのものが必要であることを発見した。一つ目は先ほど述べたように他者の研究に対してコメントできるだけの英語のボキャブラリーである。

ただし、語学はあくまでテクニカルな課題であり、真に必要なものは面白い研究をするための思考力である。今回もたくさんの面白い報告を聞いたが、報告者は必ずしも流暢な話者ではなかった。面白い研究というのは読者や聴衆に多くのことを触発する研究であり、そのためには研究者自身が、自分の研究のどこが面白いかわかっており、かつそれを適切に伝えられる必要がある。そのためには自分の研究が何をやっているのか、何がしたいのかと問い続けられるだけの思考力が不可欠である。その過程で語学力がさらに向上すれば理想的である。